

第7号 2018.7

ふじやまだより

発行者

富士市福祉キャンパスふじやま学園

代表 園長 山田 裕子

富士市大淵2106-3

TEL 0545-35-0313

FAX 0545-35-0243

新年度が始まって思うこと



富士市立ふじやま学園 園長 山田 裕子

平成30年度がスタートし3ヶ月が過ぎようとしています。新しい学年、新しい友達に不安を隠しきれなかった園児達でしたが、その生活にも慣れ、笑顔で登校する姿が見られるようになりました。

先日、新聞に「ちいさな幸せどんな時感じる？」みんなはどう？ と問いかけのコーナーがありました。バギーに乗った赤ちゃんの笑顔と「バイバイ」のように手をグーパーしてくれた時。貧しかった子どもの頃、父と一緒に川で涼をとったこと。定食屋さんのきゃべつのおかわりがうれしかったことなど小さな幸せが載せられていました。

日常の何気ない幸せ…。記事を読んでいてふっと私の「ちいさな幸せ」が蘇ってきました。それは当時「1歳児の娘が初めて笑顔で保育園に行けた朝の事」でした。うれしくて職場に急ぐ車中で思わず「ありがとう」と声にしていました。先輩指導員から「普通に思えること」に「ありがたい」「幸せだ」と感じられるのは、とても良い事だし大切なことなんだよと話して頂いたことがありましたが、それを実感するひとコマでした。

ふじやま学園では、今年度も『ほめて伸ばす支援!』を行っています。日常の何気ない動きの中から「ほめる」を見つけ自己肯定感に繋げていきます。

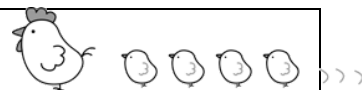
心を添えた「ほめる」は、ほめられた園児だけでなく、ほめた大人の心の豊かさにも通ずることだと思います。

自身の「ちいさな幸せ」を感じ、「感謝の気持ち」を持つ等、その気持ちを日々積み重ねていく事が大切です。「ほめる・ほめられる」「感謝する・感謝される」関係は、お互いの存在を認め尊重する事にも繋がっていきます。私も日頃の忙しさにかまけ忘れかけていた何気ない「日常の幸せ」を見逃さず、心を添えた「ほめる」に繋げていきたいと思えます。

さて、ふじやま学園では、この3月に8名（小学生2名、高等部6名）の児童が退園しました。4月に7名（小学生6名、高等部1名）の児童が入園し34名となりました。

昨年と比べると低学年の園児が増え、どの寮も賑やかに笑ったり泣いたり怒ったりすねたりと元気な声が飛び交っています。この様な日々の中で、園児一人ひとりの将来を見据えた支援が行われています。

今年度も関係者の皆様、ボランティアの皆様の変わらぬ御理解と御協力をいただきたく思います。宜しくお願い致します。



新任職員の紹介



4月に生活支援課から参りました佐野大武です。

ふじやま学園は入庁して初めて配属された職場で、5年前まで勤務していました。5年の間に子どもたちの顔ぶれも大きく変わりましたが、久しぶりに出勤した際に私を知る何人かのお子さんが、「おかえり！」と声をかけてくれ、大変嬉しく思いました。

5年前よりも体力は落ちていますが、初心を忘れず、子どもたちと精一杯関わっていきたいと思います。どうぞ、よろしくお願い致します。



4月より厚原保育園からきました渡邊陽紀です。

ふじやま学園に来ての第一印象は、周りに緑の自然が多くて、とても良い場所だと感じました。そんな中で、子どもたちと色々な経験をして楽しい思い出をいっぱい作っていきたいと思います。また、仕事の面もしっかり張っていきたいと思います。

どうか、よろしくお願い致します。



今年1月よりふじやま学園の職員として、在宅支援室で働かせてもらっています荒川真那美です。子どもが大好きで、日々いろいろな子どもたちと関わり、楽しく働かせていただいています。福祉の仕事は、初めてなため、子どもたちと関わるなかで、学ぶことや感じること、吸収することの多い毎日です。そして、子どもたちからたくさんの笑顔や元気をもらっています。これからも、子どもたちに負けないように、元気いっぱい頑張ります。よろしくお願い致します。



4月からふじやま学園のかえで寮でお世話になっています、菊岡幹人と申します。

不慣れではありますが、日々努力を積み重ね、少しでも早く子ども達の「支え」になれるよう、頑張りたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

退職職員及び異動職員の紹介

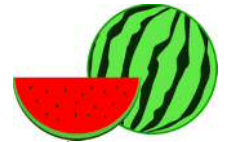
退職職員 近藤敏和 清水 波 芹澤さと美
高橋あゆみ 羽根田達司 八木里美



みなさま、長い間ありがとうございました！！



「ふじ寮」の取り組みの紹介



ふじやま学園には「ふじ寮」「つつじ寮」「かえで寮」の3つの寮があります。
今回はふじ寮の紹介をさせていただきます。

・ふじ寮の支援テーマは「伝える支援から伝わる支援へ」ということで取り組んでいます。その取り組みとして「視覚支援の強化」を実施しています。寮の子どもたちの構成が変わり、特別支援学校相当の子の割合が増えました。そのため言葉だけでは伝わりにくいことを「目で見える」というツールを用いて、いろいろなことが伝わるように支援していきたいと考えております。

①個別提示の強化について

寮や居室への個別提示については、児童に合わせたツールを用いて視覚的に提示を行う。また、視覚的提示を活用することで各職員が統一した判断基準で支援を行えるようにする。

②強化子（ごほうび）を用いた支援

子どものレベルに合わせ「〇個ごほうびシールをもらったら〇〇をプレゼントする」など、目に見える形のごほうびを用意し、いいことや努力をすることで自分にもいいことが返ってくるという経験を積ませて、好循環を作る。

③自己肯定感を高める取り組みの視覚化

「ふわふわことばの木」と、各子どもに対しての「いいところみつけ表」を作成する。自分の行いで日に日に完成する表や木があることで、視覚的に子ども達の充実感、達成感、自己肯定感に繋げることを目的とする。

（ふわふわことばの木）

園児のふわふわことば（良い発言）を葉の形の紙に書き止め、大きな木の掲示物をふわふわ言葉で装飾している。年度終わりにどれぐらい木が成長するのか楽しみです。



（いいところみつけ表）

園児のいい行動をみつけて記入しています。「いい行動」とは手伝いなどの特別なことだけでなく、「頭を丁寧に洗った」など日常の些細な行動に関しても「いい行動」と捉えて記入し、認めることで自己肯定に繋げるようにしています。園児によっては字の理解などが難しい子もいるので補助的にシールやスタンプなどを使って視覚的に褒めてもらったことがわかるようにしています。



ふじやま学園の在宅支援室とは



ふじやま学園は入所支援以外にも、地域で生活しているお子さんを支援する在宅支援室があります。主に短期入所事業と日中一時支援事業の2つの事業を行なっています。

○短期入所（ショートステイ）事業

家族の方が病気・事故・冠婚葬祭等社会的理由や私的理由により面倒が見られなくなった時、宿泊でお子さんをお預かりします。

○日中一時支援事業

日帰り利用で、放課後及び休日等の活動の場を提供します。

こどもたちは本を読んだり、課題遊びをしたり、おやつ作りなどに参加して楽しく過ごしています。また、学園には広い園庭、体育館などがあり、思う存分体を動かすこともでき、学園周辺を散策して自然を満喫することもできます。

夏にはこども達が大好きなプール遊びもあります。ご利用希望の方は、在宅支援室にお問い合わせください。



平成 30 年度職員体制

ふじやま学園所属の職員は下記の25人になりますが、福祉キャンパスの栄養士、看護師など他所属職員の協力を得て、こどもたちの支援を行っています。この1年間よろしくお願いたします。

◎園長 山田裕子 ○主任 高野洋子、後藤喜代

ふじ寮	つつじ寮	かえで寮	在宅支援室
佐藤 宗昭	原 琴美	後藤 正一	鈴木 雅幸
高村 紘太郎	白川 由布子	篠宮 良	荒川 真那美
新井 亮介	小菅 文嘉	澳塩 拓哉	三枝 将夫
佐野 大武	吉川 雅美	深澤 亮二	
石川 侑暉	望月 幸子	渡邊 陽紀	
松田 幸二		佐藤 吉行	
米山 佑紀也		菊岡 幹人	